

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (沖縄)		-	-
		スーパー（販売企画）	・6月には地域競合店の新規出店から1年が経過するので前年比は回復するとみられる。
		コンビニ（経営者）	・夏場は観光客が増加するので、そのため来客数の増加が予測され、売上が上昇するとみる。
		衣料品専門店（経営者）	・観光シーズン到来もあって、今より良くなることは間違いないかと考えられる。
		通信会社（営業担当）	・新しい元号になり気持ちも明るくなり景気も上がってくる期待がある。また携帯電話においては料金プランの変更が予定されており注目もされているので、市場が活気付くと予想している。
		観光名所（職員）	・航空路線の予約状況が良い。
		その他サービス〔レンタカー〕（営業）	・繁忙期の観光客数増加や増税前の駆け込みが見込まれ、現在受注も好調に推移している。
		百貨店（店舗企画）	・ゴールデンウィークで集客減の懸念があるが、ファミリー向けの動員企画等で集客を掛けたい。
		スーパー（企画担当）	・コンビニエンスストアチェーンの新規出店による影響を少なからず受けると考えられる。
		コンビニ（代表者）	・大型ショッピングセンターの開業や新しいコンビニエンスストアチェーンの進出が今後予定されており、人材不足が大きな懸念となるが、全体的には安定した推移をすると予測する。
		衣料品専門店（経営者）	・景気は、ここ数か月と同じく停滞したままである。客も商品の購買意欲は少ないままのようである。景気はまだまだ様子見のような感じがする。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	・年度末の繁忙期が落ち着いていくとみられるが、販売量が例年と大きく変わる要因は見当たらない。
		観光型ホテル（マーケティング担当）	・現段階の予約状況から推測できる今後2～3か月後の稼働率も、今月同様に前年同月実績を下回る見込みである。ゴールデンウィークの予約状況は悪くないが、その他の日程の予約の入込状況が悪い。
		旅行代理店（マネージャー）	・ゴールデンウィークも10連休と長いので少し期待していたが実際に近づいてくると、何をしたら良いかとか、沖縄から外に出る料金が高いという声ばかりが聞こえてきて、実際の予約成立に至っていないことが多い。
		住宅販売会社（代表取締役）	・建築相談は相変わらず多いものの、共同住宅など投資建築案件に対する銀行の融資スタンスが厳しくなっており、その影響が今後懸念される。
		商店街（代表者）	・商店街では物販業が単価を落としても売れず、閉店後には立ち飲み屋が入り、広がってきているが、この立ち飲み屋も恐らく過剰になりつつある。そのため、単価を下げないと売れない、あるいは店によっては下げても売れない状況である。店の絶対数が多くなりつつあるとみている。物販も厳しく、飲食店も厳しい状態である。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・改元等で気分は上がりそうだが、極度の人手不足で定休日を入れてもシフトが回らない状況で、売上を伸ばすのは厳しい。
	観光型ホテル（代表取締役）	・宿泊施設数の増加が激しく、客の取り合いになっている。今後もこの流れが続く。	
	住宅販売会社（営業担当）	・今月に入り消費税増税前の駆け込み需要で、請負契約が増えたことによる反動減が予測される。	
	x	-	-
企業 動向 関連  (沖縄)		-	-
		食料品製造業（総務）	・清明祭や今年の5月の10連休効果などの影響により例年よりやや良くなるとみられる。
		輸送業（代表者）	・宮古島、石垣島はホテルや量販店等の民需や、陸上自衛隊関連工事等の官需も増勢だが、基地建設の優先により、離島受け砕石の出荷が抑制されている。しかしながら、砕石メーカーの対応に改善の兆しがうかがえる。
		輸送業（経営企画室）	・那覇空港国際線連結ターミナルの影響もあり、一時的ではあるが、上向きになるのではないかとみている。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	・4～5月はやや足踏み、6月頃から民間向けが着工の見込みである。	

		広告代理店（営業担当）	・業種によって違いはあるものの、全体的に県内企業の販促予算が増加する傾向にはない。
		会計事務所（所長）	・10連休が好影響をもたらすかどうか、確信がなかなか持てない。
		-	-
	x	建設業（経営者）	・消費税増税前の駆け込み需要の反動がある。
雇用 関連		-	-
(沖縄)		求人情報誌製作会社（営業担当）	・毎年新規求人数が増加する。
		職業安定所（職員）	・観光業の好調や商業施設等の大規模雇用がある。
		人材派遣会社（総務担当）	・決算時期の繁忙期求人が増える傾向にあるが、転職等で退職する人員も増加するので、全体的に変動がない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・3月の解禁を皮切りに、新卒者に対する企業側の採用活動が早期化し活発になっており、今年度も積極的な採用が期待できそうである。ただし、現時点ではあくまでも例年と似た状況ではないかとみている。
		求人情報誌製作会社（編集室）	・毎年3月は4月の年度スタートと大型連休を迎えることもあり、1年で最も求人情件数が多くなる。連休明けから一服感により、求人情件数が減少するとみられる。
	x	-	-